

# 景観まちづくりの基本方針

(素案)

平成24年8月

## 【目 次】

1. 有田川町の概況	1
(1) 地形	
(2) 植生	
(3) 気象	
(4) 沿革	
(5) 産業	
2. 有田川町の景観特性	7
(1) 地域景観の骨格	
(2) 地域を特徴付ける生業・産業の景観	
(3) 歴史を伝える景観	
(4) 地域を見渡す景観	
3. 景観形成の理念	22
(1) 基本目標	
(2) 責務	
4. 良好な景観の形成に関する方針	23
(1) めざすべき景観像の実現	
(2) めざすべき景観像の実現に向けた取組	

# 1. 有田川町の概況

## (1) 地形

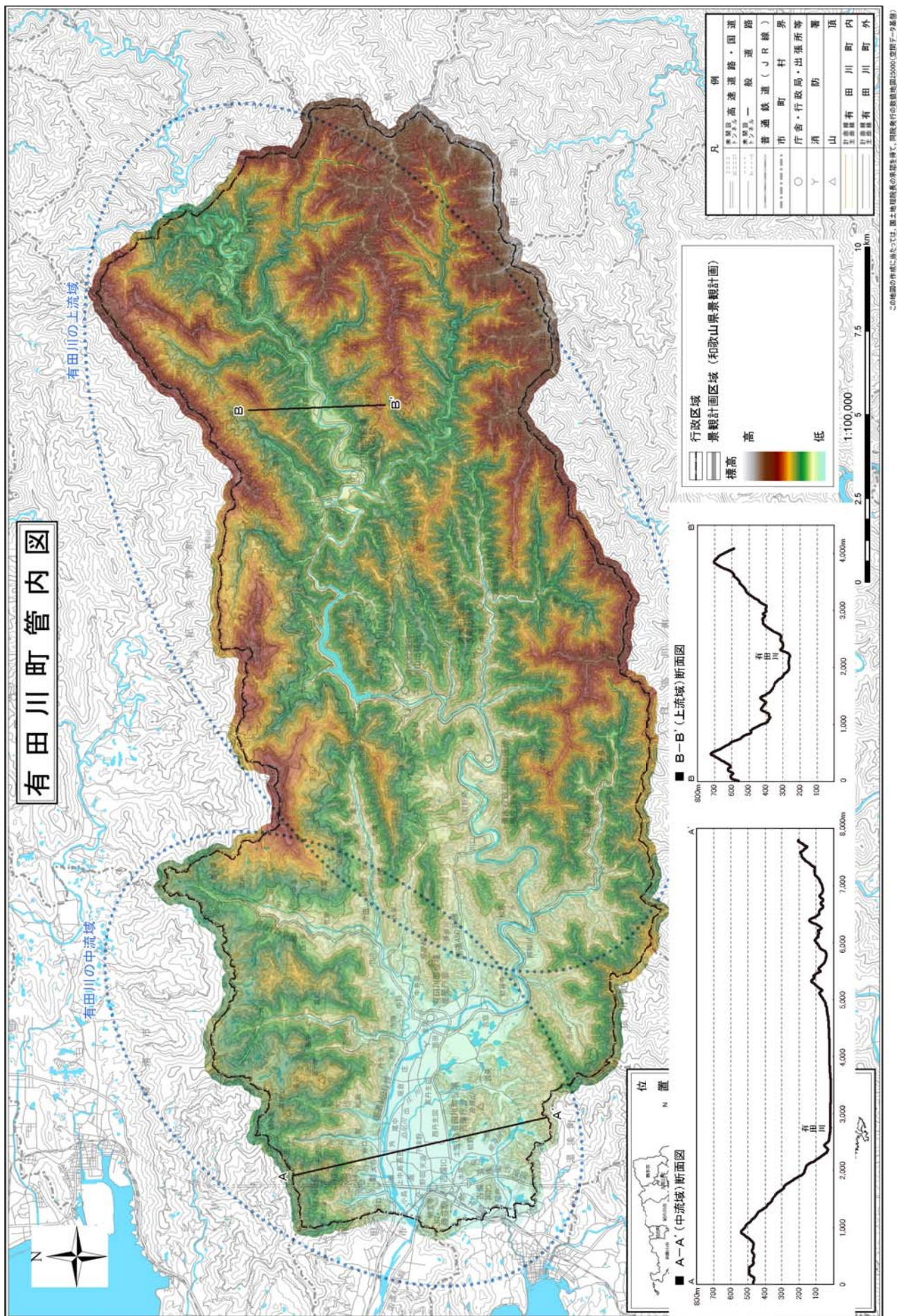
- ・ 有田川町は紀伊山地の西端に位置し、北は長峰山脈、南は白馬山脈がほぼ東西に走っており、町中央部を有田川が流れています。長峰山脈は、東方の峰ほど高く、地蔵峠付近から尖峰山を経て生石ヶ峰までは950～850m級の山々が連なっています。白馬山脈は、護摩壇山から城ヶ森山、石堂山、水ヶ宝形山等を経て白馬山まで1,350～950m級の山々が連なっています。ここから西方には、白馬山脈の支脈である三本松峰を頂点とした比較的緩傾斜の山地が広がっています。
- ・ 町域は、そのほとんどが有田川水系に含まれます。高野山に源を発する有田川は、町中央部を東から西へ蛇行しながら、長峰山脈や白馬山脈を分水嶺とする室川谷川、湯川川、四村川、修理川、早月川等の支流を合わせて紀伊水道に注いでいます。
- ・ 有田川の流況は、金屋地区を境に大きく変化しています。河川的作用によって形成された地形の特徴は、金屋地区を境に上流域と中流域の2つに大別できます。
- ・ 紀伊山地、長峰山脈、白馬山脈の山々に囲まれた上流域は平地が少なく、大部分を傾斜地が占めています。起伏の大きな山々の間を河川が流下し谷を刻む典型的な山地地形をなしており、有田川とその支流に沿って点在する小さな河岸段丘や谷底平野に農地や集落が形成されています。
- ・ 有田川によって形成された河岸段丘と沖積平野が発達している中流域では、低地がひらけた地形をなしていますが、南北に横たわる山脈と東西に張り出した丘陵性の山地により、盆地のような印象を受けます。山地や低地のいたる所でみかんの栽培が行われており、広がりのある低地では、緑豊かな市街地が形成されています。



上流域の地形



中流域の地形



この地図の作成にあたっては、国土院の委託を受け、国土院の作成した地形図(地形図25000)と、和歌山県庁の委託を受け、和歌山県庁の作成した地形図(地形図25000)を基に、及び航空写真(50mメッシュ)を併用して作成したものである。(作成年度 平成17年度)

図1 標高区分

## (2) 植生

- ・ 有田川町の植生は、有田川上流域ではスギ・ヒノキの植林地が大半を占め、中流域は、有田川町の特産品であるみかんの産地となっています。その他の植生としては、モチツツジ-アカマツ群集が尾根筋に見られ、その下部にはシイ・カシの二次林が分布しています。
- ・ 特徴的な自然植生としては、上湯川の京都大学附属研究林に分布するブナ林、モミ・ツガ林があげられます。これらの自然林は、和歌山県内で分布が限られた貴重な群落であり、京都大学附属研究林は、城ヶ森<sup>ほこだい</sup>峰尖県立自然公園に指定されています。また、和歌山県レッドリストに掲載されている植物群落としては、生石高原県立自然公園に指定されている生石ヶ峰の湿地植物群落、ススキ草原、黒沢山のアカマツ群落、ツゲ群落、湿地植物群落、立石のウバメガシ群落、伏羊のシリブカガシ群落、田殿丹生神社のコジイ群落、白馬山のモミ・ツガ群落、ブナ・アカガシ群落があります。

## (3) 気象

- ・ 気候は、瀬戸内気候区と南海気候区に属し、比較的温暖な気候に恵まれていますが、低地部と山間部では、気象状況に若干の差異があります。西側の低地部では、最も寒い日でも零度を下回ることが少ない一方で、東側の山間部では、毎年積雪が観測されます。
- ・ 大雨や台風による気象災害が発生しやすく、降水量は年平均 1,724.9mm で、月平均では 143.7mm となっています。

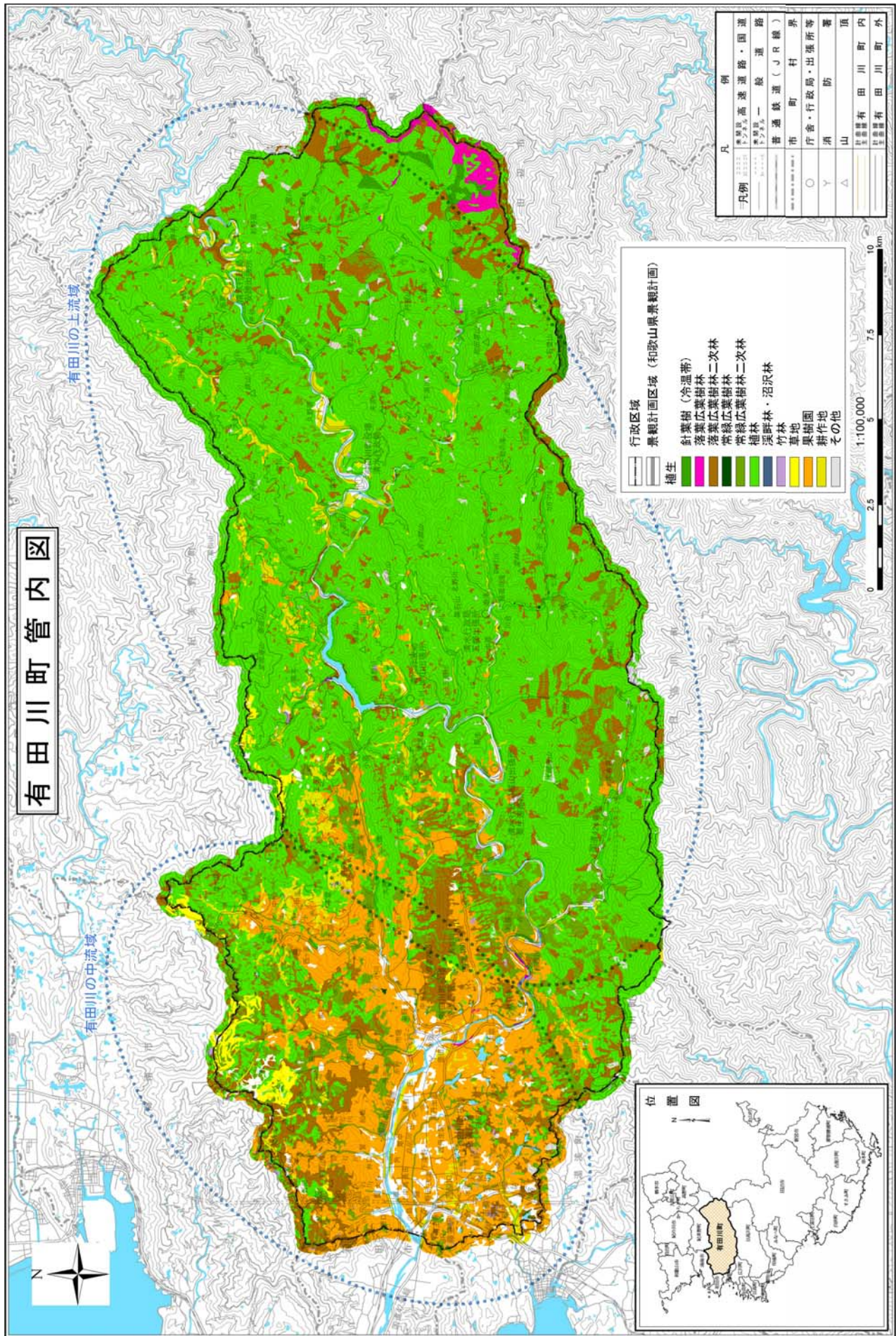


図2 植生

#### (4) 沿革

- ・ 有田川流域では、旧石器時代以降の遺跡が見つかっており、古くから人々が生活していた地域であることが分かっています。歴史的な有田川流域の発展は、空海が高野山を開創した時代に、川沿いに高野参詣道や龍神街道が形成されたことで、農林業を中心として栄えてきました。
- ・ 有田川の上流域は、阿弋川荘<sup>あてがわのしょう</sup>と呼ばれる日本史を語る上で有名な荘園でした。鎌倉時代の地頭（武士）の横暴を荘園領主に訴え、この時代の地頭の強力な支配を崩すきっかけをつくったのは、阿弋川荘の農民たちです。この物語は全国の歴史の教科書に掲載されています。また、江戸時代には、笠松左太夫<sup>かまつさたゆう</sup>が私財を投じて数多くの用水路を整備し、新田開発を行いました。あらぎ島はその代表例で、開拓当時の形状がほぼ残っています。このほか奈良県吉野から工女を呼び寄せ紙漉団地をつくるなど、笠松左太夫は、現在にも続く保田紙生産の基礎を築きました。
- ・ 特産品であるみかんは、約 400 年前の天正年間に肥後国八代から有田の地へ伝えられたと云われています。江戸時代に紀州藩がみかん栽培を保護奨励したことで、気候が柑橘栽培に適し、上方に近く海上輸送が便利であった有田川の中流域では、みかんの栽培が盛んになりました。当時、上方や江戸にみかんを出荷するため、北湊<sup>きたみなと</sup>（現在の有田市港）にみかんを集める上で重要な役割を担っていたのが有田川です。大正 5 年に有田鉄道が開通するまで、平田船<sup>ひらたぶね</sup>と呼ばれる底の浅い川舟がみかんを北湊まで運んでいました。
- ・ 明治 12 年の町村制施行により有田郡に属し、明治 22 年の市町村編成により 12 か村が設置され、昭和 30 年から昭和 34 年に吉備町、金屋町、清水町の 3 町に編成されました。その後、平成 18 年 1 月に旧吉備町、旧金屋町、旧清水町の合併により、新しく有田川町が誕生し、現在に至っています。



紀伊国名所図絵（小峠の保田紙）

出所：和歌山県立図書館



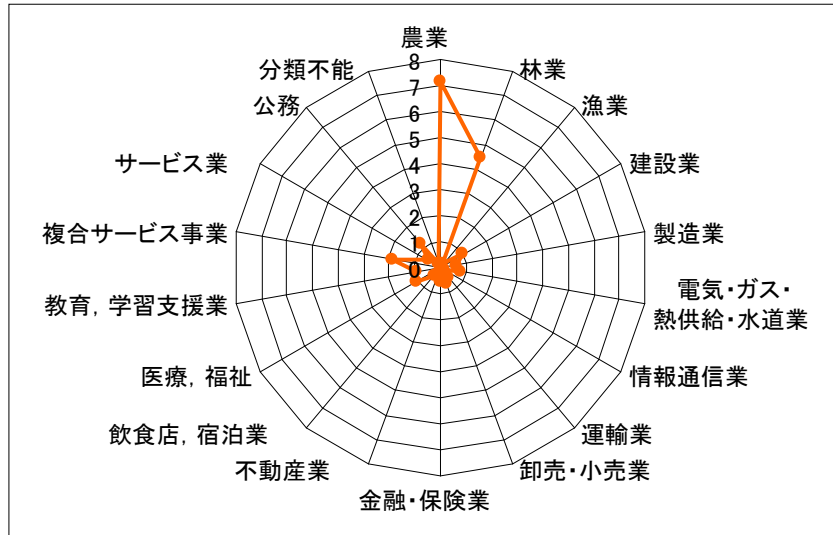
紀伊国名所図絵（田口のみかん畑）

出所：和歌山県立図書館

## (5) 産業

- ・ 有田川町の産業は、「有田みかん」や「ぶどう山椒」など全国に誇れる生産している農林業からなる第一次産業が中心です。
- ・ 産業別就業人口比率の推移を見ると、第1次産業が減少傾向にある一方で、第3次産業は増加傾向にあります。

図3 産業中分類別就業人口の特化係数

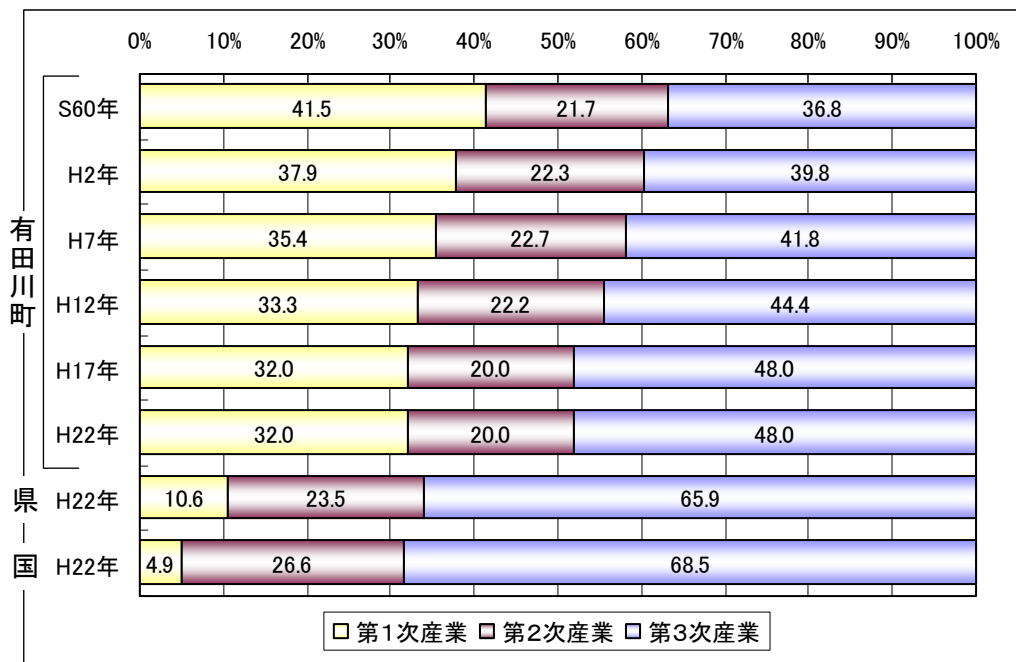


資料：国勢調査

注1：特化係数とは、全国の産業別就業人口比率に対する有田川町の産業別就業人口比の割合で、1に近いほど全国の水準に近く、1を超えると全国水準より比重が高い産業となる。

注2：複合サービス事業には、農林業協同組合、郵便局等が分類される。

図4 産業大分類別就業人口比率



資料：国勢調査



## 2. 有田川町の景観特性

- ・ 東は紀伊山地、北は長峰山脈、南は白馬山脈に囲まれた有田川町では、これらの山々と有田川流域という地形等の自然的要素によって景観的な骨格が形成されています。特に、河川的作用によって形成された地形の特徴は、金屋地区を境に上流域と中流域の2つに大別でき、上流域と中流域のそれぞれにおいて、独特の地形や気候を生かした生業・産業の景観が地域を特徴付けています。
- ・ また、各時代の歴史を知ることが、どのようにして有田川町の景観が成立してきたのかを知る手がかりになります。町内には、指定文化財など地域の歴史を伝える貴重な資源が多く残っています。
- ・ 町域を取り囲む山頂等の高台は、有田川や周囲の山々等を眺望できる優れた視点場となっています。

表1 有田川町の景観の分類

地域景観の骨格	有田川の上流域 (清水～金屋)	有田川の中流域 (金屋～吉備)
地域を特徴付ける生業・産業の景観	棚田のある里山景観	みかん畑のある里山景観 ----- 新たな表情をつくる産業の景観
歴史を伝える景観	歴史的文化遺産周辺の景観	
地域を見渡す景観	山頂等の高台からの見下ろしの景観	

## (1) 地域景観の骨格

### ① 有田川の上流域

#### (有田川)

- ・ 急峻な山々の合間を蛇行しながら流れる有田川は見通しがなく、瀬や淵が連続する川の流れと河川両側にせまる急峻な山々、河床の岩等とが一体となった景観を近景や中景で見ることができます。
- ・ 洪水調節と発電を目的として築造された二川ダムでは、周辺が公園として整備されており、ダム公園から上流にかけて桜並木が続いています。また、湖上の吊橋からはダム湖を眺望することができます。
- ・ 有田川はアユ釣り場としても有名で、友釣りの長い竿が揺れる姿は夏の風物詩になっています。



有田川の上流



紀伊国名所図絵（粟生の<sup>いわお</sup>巖）  
出所：和歌山県立図書館



粟生の巖



二川ダム湖



有田川のアユ釣り

### (山並み)

- ・ 長峰山脈と白馬山脈の山々は、緑豊かな地域の景観の背景となっています。また、これらの山々は有田川とその支流の水源の森として、水源涵養や国土保全等の面からも重要な役割を担っています。
- ・ 紀伊山地の一部が高野龍神国定公園に指定されており、これに隣接した白馬山脈の城ヶ森山等を中心とした地域が城ヶ森<sup>ほこだい</sup>尖<sup>せん</sup>県立自然公園に指定されています。これらの自然公園区域では、まとまった面積の貴重な樹林が残っています。
- ・ 微気候がつくる景観として、しみず温泉付近では朝霧が深く、幻想的な景観を見ることができます。



紀伊国名所図絵(城ヶ森<sup>ほこだい</sup>尖<sup>せん</sup>県立自然公園)  
出所：和歌山県立図書館



しみず温泉と狭霧

### (溪流・滝)

- ・ 有田川には、長峰山脈からほぼ南流する支流と白馬山脈からほぼ北流する支流が何本も発達しています。これらの支流では、<sup>いさと</sup>五郷溪谷、湯川溪谷、明恵峡、白馬溪谷等の四季折々に変化する溪谷美が形成されています。また、南部には多数の滝があります。銚子の滝、さがり滝、五段の滝、白馬の滝等の名瀑を見ることができます。



明恵峡



五郷溪谷



湯川溪谷

## ② 有田川の中流域

### (有田川)

- ・ 中流域の有田川は、川幅が広がり勾配も緩やかになっています。大部分で護岸工事がなされ、上流と比較して自然河川としての面影は薄れていますが、低地がひらけた見通しがきく景観を形成しているため、落ち着きを見せる緩やかな川の流れとともに、低地を取り囲む山々を遠景で捉えることができます。



有田川の中流

### (山並み)

- ・ 長峰山脈と白馬山脈が景観領域の衝立となり、山々に囲まれた盆地のような景観を形成しています。これらの山々は地域の景観になくてはならない背景となっています。
- ・ なだらかな高原をなす生石ヶ峰の山頂付近は、生石高原県立自然公園に指定されており、関西有数の広大なススキ草原や貴重な湿地植物群落が残っています。
- ・ 孤立した山容が認められる鳥屋城山は、小規模ですが存在感のある景観を形成しています。



長峰山脈の山並み



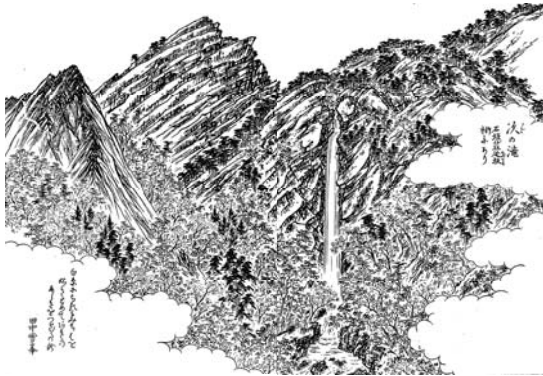
生石ヶ峰（生石高原県立自然公園）



鳥屋城山

## (溪流・滝)

- 有田川には、長峰山脈から南流する急傾斜の支流があるほか、三本松峰から低地を流下する緩傾斜の支流があります。北部で見られる次の滝、<sup>うぼがたき</sup>姥ヶ滝、<sup>こくうざう</sup>虚空蔵の滝（黒蔵の滝）は、古くからの名勝地として知られています。



紀伊国名所図絵（次の滝）  
出所：和歌山県立図書館



次の滝



紀伊国名所図絵（姥ヶ滝）  
出所：和歌山県立図書館



姥ヶ滝

## (2) 地域を特徴付ける生業・産業の景観

### ① 棚田のある里山景観

- ・ 有田川の上流域では、表情豊かな河川と急峻な山々を背景として、農林業を生業とする集落が形成されています。有田川沿いの河岸段丘を中心に棚田が展開し、傾斜地に張り付く集落や棚田など、自然と人々の営みが一体となった景観を形成しています。また、スギ・ヒノキの植林による整った山容は、町の基幹産業としてまちの発展に寄与してきた林業を象徴する景観を形成しています。
- ・ 蛇行しながら流れる有田川や石垣で形づくられた棚田など、自然と人々の営みとがつくる曲線が特徴的な構成要素となっています。特に、杉野原周辺と久野原から清水にかけての有田川は、大きく湾曲した典型的な穿入蛇行が発達しています。この曲流の内側にあたるあらぎ島は、和歌山県で唯一「日本の棚田百選」に選定され、「美しい日本のむら景観コンテスト」においても農林水産大臣賞を受賞するなど、全国的にも重要な棚田景観と評価されています。



**河岸段丘の棚田と集落**

傾斜のある土地を巧みに生かして川沿いは農地として利用し、河岸段丘の高台には家屋が立地しています。地形を尊重し、河川、農地、集落、里山に繋がる一体感のある景観を形成しています。



**地域を象徴するあらぎ島**

有田川の浸食作用によって形成された舌状の地形に、大小 54 枚の水田が扇を開いた独特の棚田景観が広がっています。「日本の棚田百選」に選ばれています。



#### 沼の棚田

歴史ある優れた分水機能を持つ棚田です。堂鳴海山を背景とする広大な棚田は、良質で定評のある米の産地ですが、近年では、山椒への転作が進んでいます。



#### 棚田と石垣

傾斜地の高低差を解消するために石垣を積み上げて作った棚田は、雨水を一時的に貯めて、地滑り地形における防災等にも貢献しています。



#### 上流域の集落

上流域では、旧茅葺民家が比較的多く残っています。屋根の上には金属板が被されていますが、急傾斜の屋根の造形は、昔の農村集落景観を印象付けます。



#### スギ・ヒノキの植林

手入れが行き届いた整った山容は、地域の基幹産業である林業を象徴する景観を形成しています。

■ 古写真でみる棚田



あらぎ島（昭和 35 年）  
出所：ふるさとしみず



沼の棚田（昭和 42 年）



## ② みかん畑のある里山景観

- ・ 有田川の中流域は、温暖な気候が柑橘栽培に適していることから、紀州和歌山を代表する地域ブランドである「有田みかん」の主産地となっています。山だけでなく、低地を含めたいたる所で展開しているみかん畑の景観は壮大で、自然と人々の営みが一体となった景観を形成しています。
- ・ 山地のみかん畑は、急傾斜面に造成された石垣階段状の畑が山上まで展開しており、山裾等に形成された集落と一体となって固有の畑地景観を形成しています。低地では、家と家の間にもみかん畑が展開し、みかん畑に溶け込む形で市街地、集落が形成されています。
- ・ 南部の河岸段丘を中心とする高位の地域では、かつて水田地帯であった頃に築造された多くのため池を見ることができます。



頂まで広がる山地のみかん畑と集落

山という山には石垣階段状のみかん畑が展開しており、山裾に形成された集落と一体となって有田町ならではの景観を形成しています。



石垣階段状のみかん畑

急傾斜面に造成されたみかん畑は、ほとんどが石垣階段状の畑となっており、麓等から確認できる石垣とみかんの木が固有の畑地景観を形成しています。



#### みかん畑の石垣

石垣は、みかん栽培に必要な保湿効果、排水効果、光の反射効果をもたらし、みかんの品質を高める役割を果たしています。



#### みかん畑越しに見る集落

低地のいたる所にもみかん畑が展開しており、山地のみかん畑と一体となって、緑豊かな市街地、集落を印象付けます。



#### みかん畑のマキの生垣

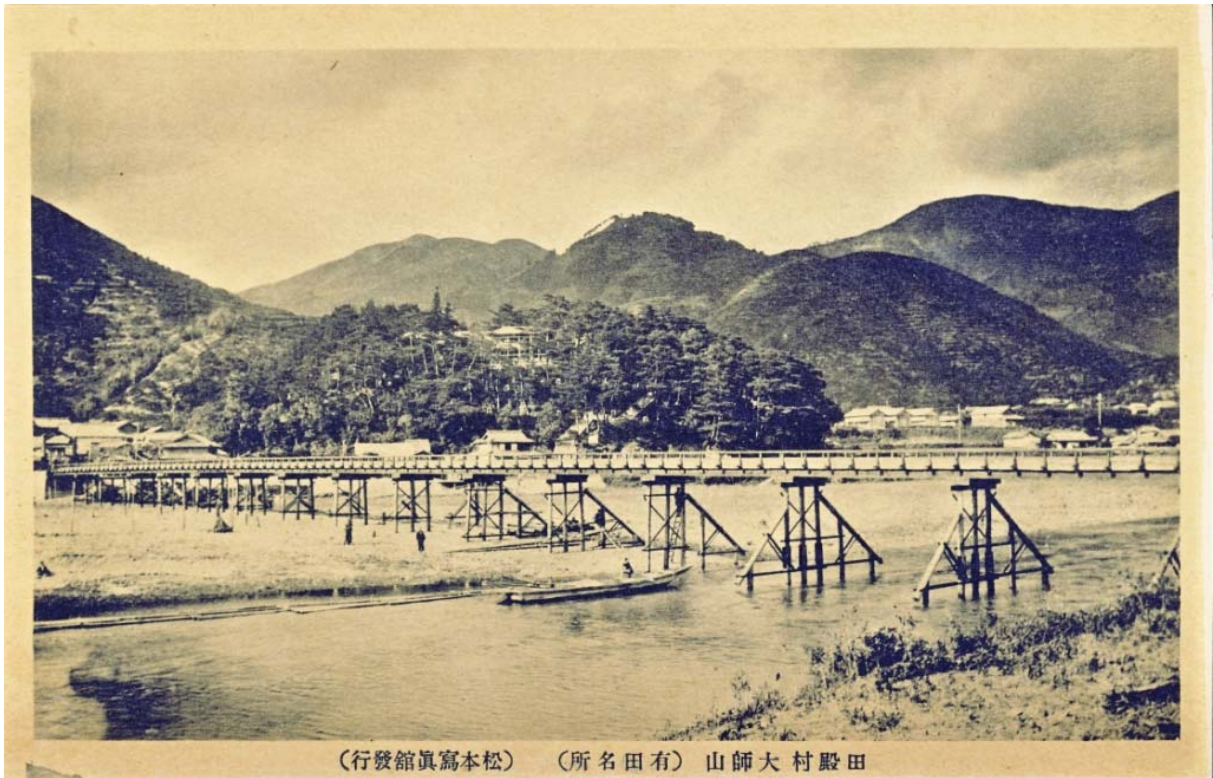
低地のみかん畑には、防風のためのマキの生垣を多く見ることができます。マキは、民家の生垣としても植えられています。



#### 河岸段丘のため池

南部の河岸段丘に残るため池は、みかん栽培の灌漑にも利用されています。ため池からは、低地を取り囲む山々等を眺望することができます。

■ 古写真でみるみかん畑



田殿のみかん畑と大師山（大正 15 年）



明治四四年和歌山縣地誌

青田のみかん畑（明治 44 年）

### ③ 新たな表情をつくる産業の景観

- ・ 有田川の中流域では、河川と山々によって形成された自然景観の中に近畿自動車道や吉備金屋バイパス（主要地方道吉備金屋線）など、幹線道路の整備が進んでいます。有田インターチェンジの周辺や幹線道路沿道には大規模な建築物が比較的多く立地し、賑わいや活力を与える新たな景観要素となっています。
- ・ 木材やみかん等の農産物を輸送する目的で敷設され、金屋地区の発展を支えた有田鉄道の線路跡は、現在は自転車道・歩道として整備され、「ポッポみち」の愛称で町民に親しまれています。また、駅舎の改築と駅周辺が整備されたJR藤並駅は、観光客の来訪と都市との交流手段として重要な役割を担っています。
- ・ 長峰山脈の山頂に建つ風力発電のための風車群は、人と自然が共生する新しい取組のシンボルとなっています。



近畿自動車道と工業団地



吉備金屋バイパス（主要地方道吉備金屋線）



ポッポみち（有田鉄道線路跡）



JR 藤並駅



長峰山脈に建つ風車群

### (3) 歴史を伝える景観

#### (歴史的建造物)

- ・ 数多くの先人たちが往来し、文化・人・物の交流の大動脈としての役割を果たした高野参詣道、龍神街道と呼ばれる古道沿いを中心として、<sup>ちようらくじ</sup>長楽寺、<sup>やくおうじ</sup>薬王寺、<sup>しろいわにう</sup>白岩丹生神社、<sup>ほうおんじ</sup>法音寺、<sup>きっしやうじ</sup>吉祥寺、<sup>うじやくじ</sup>雨錫寺阿弥陀堂、岩倉神社等の寺院・神社や江戸時代に建てられた茅葺き民家（鈴木家住宅）、造り酒屋特有の景観が見られる高垣酒造、金葵酒造等の歴史的建造物が点在しています。また、これらの寺院・神社は、杉野原の<sup>おんだのまい</sup>御田舞、久野原の<sup>おんだ</sup>御田、栗生のおも講と堂徒式など、住民によって大切に継承されてきた貴重な伝統芸能の舞台となっています。
- ・ 標高約 800m の山中にある岩坂観音は、眺望が絶景で、スギやサクラの巨木もある景勝地として知られています。
- ・ 松原の修理川や遠井、三田の有田川では、まちの発展に振興に貢献した近代遺産として、南海水力電気株式会社が建設した発電所跡が残されています。



白岩丹生神社本殿



吉祥寺薬師堂



杉野原の御田舞（雨錫寺阿弥陀堂）



岩坂観音



高垣酒造



金葵酒造

### (遺跡)

- 日本を代表する高僧として名高い明恵上人の修行地及び生誕地は、八所遺跡（明恵上人遺跡卒都婆）として史跡に指定されており、上人の生誕地である有田川町では、5ヵ所の史跡を見ることができます。また、上人生誕地に近接して建つ歓喜寺には、上人ゆかりの品が伝わっているほか、上人誕生地の吉原には「上人田」「念仏田」と呼ばれる地名が残っており、上人に因んで名付けられた明恵峡とともに、上人との縁を強く感じさせられます。
- 町内には、中世に築かれた数多くの山城跡が存在しています。このうち有田川の中流域でひときわ目立つ鳥屋城山の山頂には、中世の城跡として唯一、和歌山県の史跡指定を受けている鳥屋城址があります。



いかだち  
筏立遺跡（明恵上人遺跡卒都婆）



鳥屋城址

### (樹木・樹林)

- 有田川の中流域では、中世まで夏瀬の森と呼ばれるクスノキが広く分布していたと考えられており、田殿丹生神社のクスノキは、当時の名残をとどめています。また、藤並神社のイチイガシ、金屋橋畔きょうはんのムクといった巨樹・巨木が残されています。



夏瀬の森（田殿丹生神社のクスノキ）

#### (4) 地域を見渡す景観

- ・ 有田川の上流域を見下ろす主な眺望点としては、岩坂観音や高野龍神スカイライン、生石高原があり、幾重にも連なる稜線が形づく雄大な景観を見ることができます。
- ・ 有田川の中流域を見下ろす主な眺望点としては、鷲ヶ峰コスモスパークや千葉山があります。有田川流域とその周囲の山々に加え、遠く紀伊水道や大阪湾まで眺望することができるほか、夕日・夜景スポットともなっています。また、市街地に近い鳥屋城山、あたご山、大師山等の小規模な山地は、身近な眺望点として町民に親しまれています。



高野龍神スカイラインからの眺望



生石高原からの眺望



鷲ヶ峰コスモスパークからの眺望



千葉山からの眺望



大師山からの眺望

## 3. 景観形成の理念

---

### (1) 基本目標

有田川町の景観は、緑なす紀伊山地や長峰山脈、白馬山脈の山々、変化に富んだ有田川とその支流により骨格が形成されています。有田川町では、有田川流域の独特の地形に造成された棚田や段々畑など美しい農林業の景観が保たれ、その中に点在する集落や市街地の落ちついたたずまい、歴史的文化遺産などが一体となって、有田川町らしい景観が形づくられてきました。

これらの有田川町らしい良好な景観は、人々の生活や生業の中で生まれ、支えられ、継承されてきたものです。私たちはこれらの取組に敬意を表しながら、身近なところに当たり前のようにある有田川町らしい景観の価値に気づき、その成り立ちを丹念に読み解き、共有していく過程を通じて保全し、創造し、次代に引き継いでいかなければなりません。

このような認識の下に、町、町民、事業者及び来訪者が協働し、有田川町らしい良好な景観の形成を図っていくものとします。

### (2) 責務

#### ① 町の責務

町は、良好な景観の形成に関する総合的かつ計画的な施策を策定し、これを実施するとともに、地域の特性に応じた良好な景観の形成に配慮して、公共用又は公用の施設の設置に関する事業（以下「公共事業」といいます。）を実施するものとします。

また、良好な景観の形成に関する県の施策との連携に努めるとともに、町民及び事業者の主体的かつ積極的な取組が促進されるよう必要な支援を行うものとします。

#### ② 町民の責務

町民は、良好な景観の形成に関する理解を深め、良好な景観の形成に積極的な役割を果たすよう努めるとともに、町が実施する良好な景観の形成に関する施策に協力しなければなりません。

#### ③ 事業者の責務

事業者は、土地の利用等の事業活動に関し、良好な景観の形成に自ら努めなければならない。

また、地域社会の一員として、町及び県が実施する良好な景観の形成に関する施策に協力しなければなりません。



## 4. 景観まちづくりの基本方針

### (1) めざすべき景観像の実現

#### ① 気候・風土を生かした農の景観の魅力を醸成する

豊かな自然に恵まれた本町では、農業が長く営まれています。稲作、みかん、山椒等の独特の地形や気候を生かした農業は、本町の産業を支えるだけでなく、有田川上流域の川沿いに展開する棚田や中流域のいたる所で展開する壮大なみかん畑など、極めて地域色が豊かな景観を創り出してきました。特に、傾斜地に展開する棚田及び段々畑は、石垣の積み上げや水を得るための努力の跡が見られ、昔の人が残してくれた大切な文化遺産でもあります。

これらの農業が生み出した美しい景観は、自然と人々の営みの歴史を今に伝えるものであるとともに、「有田みかん」に代表される農産品のブランド価値を向上させるものです。そのため、有田川沿いに展開する棚田及び段々畑など、農地の景観をふるさとの「顔」として維持・活用し、その魅力を高めます。



#### ② 山地や森林、河川等の骨格となる自然景観を保全する

本町は、紀伊山地、長峰山脈、白馬山脈の山々、有田川とその支流など豊かな自然に恵まれています。高野龍神国定公園、城ヶ森鉾尖県立自然公園、生石高原県立自然公園等では、手つかずの貴重な自然が残っています。

これらの自然は、長い時にわたって本町の骨格を形づくり、歴史・文化といった地域の風土を育み、暮らしに多大な影響を与えてきた唯一無二の価値を持つものです。また、自然が創り出す景観は、江戸時代後期に編纂された「きいのくにめいしよすえ紀伊国名所図絵」にも挿絵が掲載されているように普遍的な価値を持っています。そのため、かけがえのない財産である自然と、それらが創り出す骨格的な景観を保全します。町名でもある有田川については、洪水氾濫等による災害の発生の防止又は軽減を優先しながらも、自然豊かな環境と河川景観を維持・改善します。



### ③ 新たな表情をつくる幹線道路沿道の景観の魅力を高める

近畿自動車道、国道 42 号・424 号・480 号等が縦横に交差する本町では、有田インターチェンジの周辺において、交通の利便性を生かした大規模な施設が立地しています。また、有田インターチェンジに連絡する道路として平成 21 年に供用された吉備金屋バイパス（主要地方道吉備金屋線）の沿道では、自動車交通の利便性の向上に伴い、商業施設を中心とした開発圧力が高まりを見せています。

商業等の産業活動が創り出す景観は、まちに賑わいや活力を与えますが、その一方で、吉備金屋バイパス等の沿道は、観光の玄関口として、訪れる人のまちへの印象を深める場所であるため、大規模行為と周辺の自然景観との調和が特に求められます。そのため、吉備金屋バイパスなど幹線道路沿道については、まちに賑わいや活力を生み出す商業等の振興とあわせて、このような産業活動が創り出す景観の魅力を高めます。



### ④ 多様な時代の歴史や地域の文化が息づく景観を継承する

高野参詣道など古道沿いに点在する神社・寺院、茅葺き民家、造り酒屋物等の歴史的建造物、偉大な先人たちの足跡や中世に築かれた多数の山城跡、有田川の水運・水利の歴史を物語る遺構、昔の郷土の名残をとどめる社叢や巨樹・巨木等の歴史的文化遺産は、古代から中世、近世を経て現代に至る歴史の流れを伝え、各時代を通じて育まれてきた地域の文化が息づく固有の景観を創り出す重要な要素となっています。

これらの歴史的文化遺産を保全し、魅力を高めながら次代に継承していくため、歴史的文化遺産が持つ歴史上又は学術上の価値等を読み取りながら、これらの資源と一体となった周辺景観の魅力を高めます。



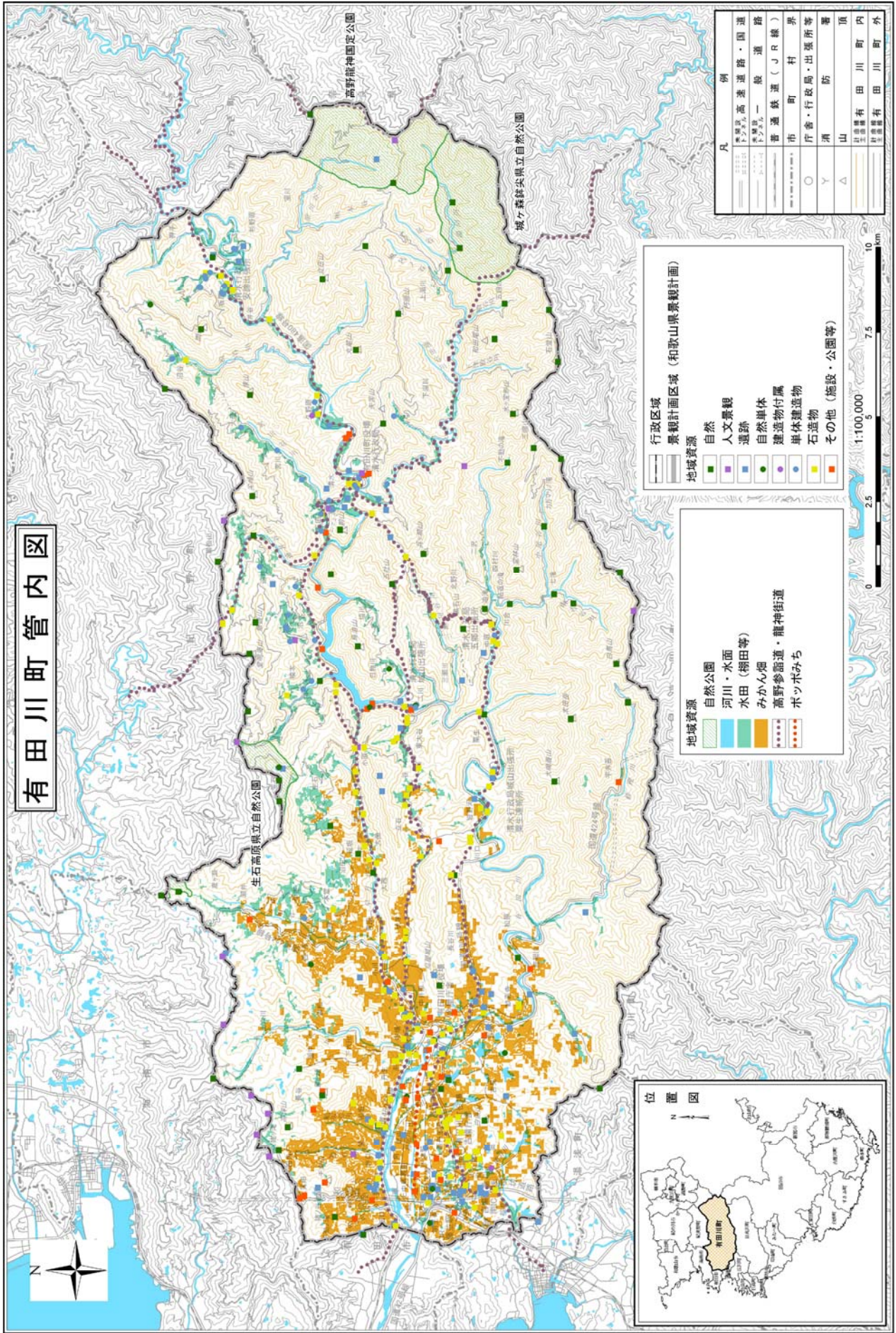


図5 有田川町の景観資源

## (2) めざすべき景観像の実現に向けた取組

### ① 景観の魅力を読み解き内外へと発信する

本町には、古くから人々を魅了してきた自然景観だけでなく、独特の地形や気候を生かした地域色が豊かな農の景観があります。農業を基盤とした身近に存在する景観が、他にはない本町の景観の魅力です。しかしながら、このような暮らしを取り巻く景観は、時代や地域社会によって日々変化する景観であるため、その価値に町民自身が気付かなければ、失われる可能性がある景観です。

そのため、農の景観など暮らしを取り巻く景観の魅力を読み解き、その魅力を多くの町民に伝えていく取組等を通じて、景観に対する町民意識の高揚を図ります。また、他にはない魅力ある景観を町外に広く発信し、観光の振興や交流人口の増加を図ります。

### ② 農林業の振興や地域の活性化につながる協働の景観づくりを推進する

本町の魅力である農の景観は、農林産物の生産を通じて維持されるものです。しかしながら、人口減少と少子高齢化が進展する本町では、農林業従業者の高齢化・後継者の不足、集落における世帯数の減少といった問題が深刻化しており、耕作放棄地や老朽化した空き家等の増加が景観を損ねる大きな要因となっています。

そのため、農林業の振興や地域振興・地域おこしに関する様々な取組と連携しながら、総合的な景観施策を検討し、本町にふさわしい景観づくりを推進します。また、良好な景観を維持・継承していくためには、住民の関わりが重要となるため、地域の清掃活動等も含めて、住民との協働による地域に根ざした景観づくりを推進します。

### ③ 大規模行為や屋外広告物を適正に誘導する

本町の景観は、豊かな自然が土台となって形づくられています。本町では、有田川中流域の低地を除く町域のほとんどが都市計画区域外であり、開発行為に対する規制の緩い山地が広い範囲で分布しています。そのため、幹線道路網の整備を背景として、町内全域にわたって自然景観を阻害する開発行為等が行われる可能性があります。また、幹線道路沿道の一部の地域では、屋外広告物が乱立し、雑然とした印象を与えています。

美しい自然景観を保全するため、大規模な土地の改変を生じさせる行為については、その計画を事前に確認し、周辺の自然景観と調和するよう適正な誘導を図ります。また、幹線道路沿道等に設置される屋外広告物についても良好な景観の形成に寄与するよう、適正な誘導を図ります。